

Presidential Award Presentation

Presidential Award Presentation (II-PAL)

座長:坂本 喜三郎(静岡県立こども病院)

座長:安河内 聡(長野県立こども病院 循環器小児科)

Sat. Jul 8, 2017 8:30 AM - 9:20 AM ROOM 4 (Exhibition and Event Hall Room 4)

8:30 AM - 9:20 AM

[II-PAL-05] 両大血管右室起始症における conotruncal criss-cross の CT による評価と外科的病型分類

○小出 昌秋¹, 前田 拓也¹, 岡本 卓也¹, 高柳 佑士¹, 瀬戸 悠太郎¹, 櫻井 陽介¹, 森 善樹², 中嶋 八隅², 金子 幸栄², 井上 奈緒², 村上 知隆² (1.聖隷浜松病院 心臓血管外科, 2.聖隷浜松病院 小児循環器科)

Keywords: 両大血管右室起始症, Conotruncal Criss-cross, CT

【背景】両大血管右室起始症(DORV)の分類は Van Mieropらが提唱した conotruncal criss-cross理論が外科的術式との関連において理解しやすい。今回我々は CTの画像から漏斗部中隔(IS)と心室中隔(IVS)の関係を分析し DORVの外科的分類を試みた。【対象と方法】当院にて1998年以降手術を行った DORV (PA、Heterotaxyを除く) 33例のうち造影 CTを行っており、画像上 ISと IVSの形態が観察できた21例(解剖学的修復13例、機能的修復8例)を対象とした。後方視的に診療情報を閲覧した。MSCTによる画像は0.6mm厚で画像解析ソフト(TeraRecon社 Aquarius)により解析を行った。2D画像の体軸断面画像を前額矢状方向から調整し両半月弁輪レベルに合わせ、その角度のまま尾側にスキャンして ISおよび IVSを描出した。IVS角度を0度として、それに対して ISが左室方向を向く角度を L、右室方向を Rとして、IVSに対する ISの角度を L0°、R0°と表現し conotruncal criss-cross理論の分類との関係を検討した。【結果】IVSに対する ISの角度が左室側を向いているものが11例(L群、L6°~L104°)、右室側を向いているものが10例(R群、R0°~R161°)あり L群は NGA群、R群は TGA群と分類した。L群のうち臨床的に SDNあるいは ILINと診断されていたものは6例で L66°~L104°、SDDと診断されていたものは4例で L52°~L72°と前者の角度が深い傾向にあった。SDDと診断のうち2例は Doubly Committed VSDで Taussig Bingに近い形態と考えられた。残りの1例は L6°と角度が極端に浅く Posterior TGAと診断されていた。R群10例は全例 SDDあるいは ILLと診断されており10例中7例は角度が浅く(R0°~R33°)、角度が極端に深い2例(R102°,R161°)は ACMGAと診断されていた。中間の R90°の1例は後方視的に ILDと診断した。【考察】CTによる IVSと ISの関係から conotruncal criss-crossを観察することは DORVの外科的病型分類上有用であり、術式選択の参考になることが示唆された。